

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192300141		
法人名	社会福祉法人章佑会		
事業所名	和光市共生型福祉施設ひかりのさと		
所在地	埼玉県和光市丸山台2-20-15		
自己評価作成日	平成30年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成30年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「和光市共生型福祉施設ひかりのさと」という名前にあるように、当事業所は高齢者のグループホームと障害者のグループホームが併設され、様々な支援を必要とする人々が共同生活していける場所を目指している。
 季節のイベントを全体行事として取り組み、館内の他フロアと交流を持つ機会をつくっている。入居されている利用者さんたちの交流もそうだが、1階の相談支援や地域包括の職員も関わりを持つことで、2階3階の職員にも専門性の高い助言やアイデアが得られる環境になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あらゆる人に生きる夢と勇気と希望を提供します」という法人理念を基に、自立や自己表現を目指した視点で入居者一人ひとりを見ながらケアをしている。また和光市の理念となる自立支援の観点に立ったプランを作り、人がどんなに年老いても人としての尊厳を持ち続けられるような支援を行っている。共生型福祉施設として1階は地域包括支援センター、障がい者と子育ての相談室、2階は高齢者グループホーム、3階が障がいの者のグループホームがある。障がいの者の仕事が休みの日曜日に、高齢者と障がいの者の交流が行われている。1階の地域交流スペースは絵本・童話サークルや小学生のミニバスケットグループが利用しており、イベント時には地域に開放している。マジックショー、ハーモニカ、詩の読み聞かせ、映画鑑賞会、傾聴等の多くのボランティアが訪れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共生型という施設のコンセプトに基づいた取り組みは共有・実践している 地域密着型固有の理念としては取り組んでいない	法人理念として「あらゆる人に生きる夢・勇気・希望を提供します」を掲げ、地域に密着した共生型施設として機能している。職員は2階と3階の交流行事では理念に基いた経験を活かして取り組んでいる。	事業所開設5年目を迎え、内部研修と自主勉強会を今まで以上に充実させる等により、職員の法人理念の共有と実践につなげていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地区社協への参加 地域行事、清掃、防災訓練、廃品回収等へ参加	自治会に加入し地域のお祭りや餅つき、清掃等に積極的に参加し、地区社協の活動にも携わり、地域の活性化に協力している。1階の交流室を地域の母親や小学生のグループに開放して交流の場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンの実施のほかは、一般高齢者向けのうるかむ事業の実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方から、地域の行事への参加の仕方など、アドバイスをもらったり、便宜をいただいたりしている。	2か月に一度、家族、自治会長、市の高齢者、障がい者担当課職員、地域包括支援センター職員の出席を得て開催している。利用者の状況や行事の報告後出席者から日々の取り組みについての質問を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の報告や相談を通じて、常にご指導ご助言をいただいている。	市が掲げている共生型福祉施設の趣旨に沿って行政とは密接に協力し合い情報を共有している。市が立ち上げた小学校区ごとの地区社会福祉協議会の活動にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を通じて身体拘束への正しい理解を促し、より良いケアを目指している 電子錠や自動ドアのスイッチ類は自由な出入りを妨げている	平日は玄関の施錠を行っていない。身体拘束については全体会議で資料を基に何が拘束にあたるのかを確認し合っている。虐待についても内部研修を行い職員の周知に努めている。事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部の研修で取り上げ、周知をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々のケースに応じて関係者と協議し、取り組んでいる。 実際に活用しているケースなどの個別の対応は職員に周知し、実践を通じて学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明や相談を重ね、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施が暗礁に乗り上げている	家族の面会時には管理者やリーダー、介護支援専門員が家族から意見や要望を聞くようにしているが、現在のところ意見や要望を得られていない。何かあれば迅速に対応して説明する態勢である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会などの会議の際に意見を求め、全体の運営に活かしている	全体会議において職員の意見を聞いている。また管理者は個別に声かけをして意見を聞くように心がけ、リーダーと共に対処策を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握していただけるよう報告し、職場改善のために努力していただけるよう相談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の外部研修や個人の資格取得に対する支援も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事業所間交流の機会が設けられているが、現場の人員の不足から思うように活用できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントの実施を通じて関係構築を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の面接時から関係構築し、インテーク、アセスメントの実施を通じて課題把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け入れ前のケアマネや関係機関、担当地域包括と相談したうえで対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で自身のことや、共通の家事などで役割を持ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族で対応できる部分は可能な限りご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	周囲の協力の得られる部分で、対応をお願いしている。	外食等で車で外出する際には利用者が以前住んでいた地域を通るように心がけている。初詣では利用者の馴染みの場所ということで話が弾んだ。帰宅願望のある利用者には寄り添って話を聞くように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々との関係性を把握し、環境調整を行うが、トラブル回避が主となり、関係づくりまでは至っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事後の手続きなどを通じて、経過を把握している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画担当中心に意向の把握と反映に努めている	職員は利用者一人ひとりの入居時の情報を把握して個別に対応している。日頃からケア中心ではなく、希望や嗜好を聞いて意向に沿うようにしている。レクリエーション時には出身地の話題が出ることが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の関係機関との調整やケア会議を通じて把握、足りない部分は家族に確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画担当中心に把握し、維持改善に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各関係者と情報共有したうえで計画が作られている	居室担当者を置かずに職員全員で利用者に接し、気づきを共有してミーティング時に話し合っている。計画担当者を中心に利用者と家族の意向、関係者の意見をまとめて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と共有をを行い、専門家の意見を取り入れつつ介護の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人だけでなく、家族の状況に応じた対応は心がけている。多機能とまではいかないが		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一旦地域との繋がりが切れてしまった方が多いため、なかなか個々の力が発揮できる繋がりが見いだせない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	内科はかかりつけ医を受診している。歯科医は毎月来訪し必要な方が受診している。受診科によっては職員が状況説明のために家族に同行している。夜間緊急時はかかりつけ医又は夜間外来病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師やワーカーとの関わりを密にし、理解や協力を得られるよう配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況が変化した場合などの現状の説明と、今後の展望として考え得るリスクと方針の相談を早い段階でできるよう機会を作っている	家族には入居時に事業所としての指針を説明している。医療行為が必要になった時は病院に入院してもらい、家族と相談しながらその後の方針を決めることにしている。システムを整えてから看取りの方針を作りたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の状況に応じて予想されるリスクの共有と、連絡先の把握を行っている 訓練までは実施できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいた消防訓練と、地域の防災訓練に参加	年2回、消防署立ち会いの下、避難訓練を行ない、近隣にも事前に知らせて参加を募っている。地域の広域避難訓練にも参加している。3日分の備蓄品を確保し、緊急連絡網や利用者の薬情報も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重し、対応している	利用者一人ひとりの個性を尊重して対応している。申し送り時には利用者個人の名前ではなく部屋番号を使用している。トイレ誘導時の声かけは利用者の気持ちを配慮してそれとなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で何かしら選んでもらうなどの機会はあるものの、そういった機会を積極的に増やせていない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを作るために基本の日課が存在しているが、その人の調子やペースで参加してもらっているようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれを継続する能力を、その人が失ってしまった時に、対応が難しくなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせた個別のメニュー調整や、持っている力に応じた役割を担っていただいている	正月のおせち料理や誕生日のケーキを楽しんでもらっている。昼食の焼きそば作りやおやつ作りでは利用者にも手伝ってもらっている。時々外食にも出かけて好物のラーメン、お寿司等を味わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し、適切に摂取量を確保できるよう、嗜好などに応じて対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	しているが、口腔ケアが苦手な人に対し、十分でないことがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう誘導や介助などをおこなっている	排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っている。自宅では排泄状況が極めて困難だった方が入居後に改善されて家族から驚かされている。入院中オムツ使用の方の退院後のトイレ誘導にも力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動などの工夫が難しくなっている。特に必要な人に対しては薬などによる対応が中心となっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴予定から逸れる方がほほいらない。個別の事情があれば予定の変更などは随時おこなう。	週に2回、一人ひとりお湯を取り換えて午後5時の時間に入浴してもらっている。肌が敏感な方には希望の石鹸やシャンプーを使用してもらっている。菖蒲湯や柚子湯で季節感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息や睡眠がとれるよう支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を薬と一緒に管理。変更などあれば情報共有。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若干の役割や、季節ごとの楽しみをつくっている。個々の楽しみについて取り組み始めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や後見人の協力を得ながら、個別の外出などが実施されている	個別に家族や後見人の方と外食やパチンコ、カラオケに出かけている。日常的に2、3人単位で近くの公園まで散歩に出かけて外気浴を楽しんでもらっている。初詣は自治会長から教えてもらった坂道のない歩きやすい神社に車で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に本人に支払いなどを任せることはあっても、事業所内では所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	まれに手紙を書く機会がある程度		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事の写真を掲示して、記憶を刺激 月の予定を貼りだす掲示板には季節の装飾を行っている	安全と清潔が保たれた居心地のよいリビングや通路の壁には思い出の行事写真や季節の装飾品が飾られている。食卓テーブルの座席は利用者の様子を見ながら替えている。共用部分の清掃は夜間、利用者が就寝中に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルが起きない程度の空間調整にとどまっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要なものを個人で持ち込んでもらっているが、果たして本人の居心地まで配慮できているかは、差異がある。	利用者は使い慣れた品を持ち込み、窓辺に写真や置物を飾って自宅の自室のように過ごしている。ベッドからの転落防止のために床に布団を敷く方もいる。清掃は基本利用者としながらも職員がカバーしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの生活様式に合わせた品物を居室内に置いてもらうなどしている ex鏡と電気シェーバーなど		